

戦略プロジェクト

- 1 まちの魅力につながる保幼小中一貫教育の推進
- 2 みんなでまちを楽しむ、地域を支えるコミュニティづくり
- 3 にぎわい交流ゾーンを活用したまちの活性化

戦略プロジェクト

1 まちの魅力につながる保幼小中一貫教育の推進

田尻町で育つ子どもたちが、一貫した教育カリキュラムの中で学び、育つ教育施設である一貫校の設置をめざします。学びの連続性の確保や社会に開かれた学校園所としての在り方の方向性、何よりも町に保育所・幼稚園・小学校・中学校が1つしかない特色を活かし、地域に根ざした学校園所づくりを推進します。一貫校開校に向けて、先進校の調査や一貫校検討委員会の発足、保幼小中合同行事の開催などの施策を実施し、まちの魅力につながる一貫教育の推進を図ります。併せて、施設面においても、子どもが日常的に交流し、さまざまな出会いを通じて育ち、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力を育むための施設整備を進めます。

また、今後ますます国際化が進むなか、外国籍や外国にルーツのある児童生徒の増加が予想されます。現在の通訳・日本語指導の体制を充実させるとともに、当該児童生徒の学習・進路保障に併せ、保護者支援等の充実を図ります。

これら施策の推進により、0歳から15歳までの子どもたちの育ち・学びを切れ目なくつなげ、一貫した教育カリキュラムの実施及び、一貫校で共に生活することによる育ち合い・学び合い、郷土への理解と愛着の醸成によるグローバル*1人材の育成をめざします。また、こうした特色ある教育環境を他の子育て支援施策等とあわせて、まちの魅力向上や地域の付加価値増大につなげ、子育て世代を中心とした若年世帯の定住促進をめざします。

プロジェクト内容

●一貫校のめざす将来像や子どもの姿の共有

社会に羽ばたく時期をゴールとして捉えた15年間の子どもの育ちを見据え、『心の教育ビジョン』を作成し、学校園所の運営計画にも反映させることにより、町がめざす人材育成との整合性を図ります。

ビジョンは一貫校検討委員会で作成を進め、学校園所だけではなく地域の理解を得ることでPTAをはじめとする各種団体等の協力体制の確立を図ります。教職員の意識醸成の柱となる方針を示し、それぞれの発達段階で育成すべき資質・能力を明確にします。

一貫校の施設整備を進めるにあたり、グループミーティング等の対話型の授業をおこなえる教室や、ICT環境の充実、校種間交流を進める職員室、室内運動場や各種特別教室を効果的に活用できるよう検討を進めます。また、地域に開かれた学校として、児童生徒だけではなく住民が活用できる空間を設け、一層の交流を進めます。

●小中一貫教育に係る少人数習熟度別指導教室の設置及び小学校全学級35人学級編成の実施

今後の一貫校の在り方を検討する教育環境を整え、小中の授業スタイルの確立、少人数習熟度別指導による学力向上を図るためICTを活用した先進的な授業の在り方、一貫

① つなぐまちをつくる
ひとを育み未来に

② 暮らせるまちをつくる
誰もが元気に安心して

③ 住み動き楽しく豊かさを
感じるまちをつくる

④ みんなでまちをつくる

戦略プロジェクト

校独自のスタイルの研究をおこないます。その教育環境のもとで小学生と中学生が日々交流を図ることにより、ロールモデル*2としての中学生の自覚の醸成と環境の変化等によって生じる小中の段差解消を図ります。

また、35人学級の編成による児童の学力向上をはじめ、魅力ある教育施策を展開します。

●魅力ある一貫校づくりの検討

施設・人・もの・環境など既成概念に捉われない学校づくりを推進するため、先進校の調査はもとより、各分野の専門家（心理・福祉・法律・警察・IT・医療等）の配置検討や、一貫校にふさわしい施設整備等、誇れる学校としての在り方の検討を進めます。

また、このように構築された近隣市町に例のない教育環境をまちの魅力向上につなげるため、町の対外的なプロモーションコンテンツとして積極的に活用し、子育て世代を中心とした若年世帯の定住促進を図ります。

* 1 グローカル：全世界を同時に巻き込んでいく流れである「世界普遍化＝グローバル」と、地域の特色や特性を考慮していく流れである「地域限定化＝ローカル」の2つの言葉を合わせた混成語

* 2 ロールモデル：自分にとって、具体的な行動や考え方の模範となる人物のこと

①
ひとを育み未来につなぐまちをつくる

②
誰もが元気に安心して暮らせるまちをつくる

③
住み働き楽しく豊かさを感ずるまちをつくる

④
みんなでまちをつくる

戦略プロジェクト



プロジェクト推進に係る施策展開

① ひとを育み未来につなぐまちをつくる

短期的施策

○一貫校のイメージを共有

- ・ 先進校の調査
- ・ 一貫校検討委員会の発足
- ・ PTA・教職員・住民説明会の実施
- ・ 教育委員会体制整備
- ・ 外国籍や外国にルーツのある児童生徒及び保護者に対する支援体制の検討・整備
- ・ 一貫校として必要な施設、環境等の検討
- ・ 住民も活用できる施設の検討

② 誰もが元気に安心して暮らせるまちをつくる

中期的施策

○保幼小中一貫教育カリキュラムの作成
○施設・環境整備

- ・ 『心の教育ビジョン』の作成
- ・ 食育を通じた農・漁業の体験学習など郷土への理解と愛着を醸成するカリキュラムの検討
- ・ 教職員校種間異動の活性化
- ・ 学校行事見直し、精選と合同行事の計画・実施
- ・ 小学校一部教科担任制の検討
- ・ 一貫校として必要な施設、環境の整備

③ 住み働き楽しく豊かさを感ずるまちをつくる

長期的施策

○一貫校の開校

- ・ 教職員によるワーキンググループの発足
- ・ 一貫教育カリキュラムの完成
- ・ 各分野の専門家（心理・福祉・法律・警察・IT・医療等）の配置検討
- ・ 一貫教育研修の実施
- ・ 対外的なプロモーション活動への活用

④ みんなでまちをつくる

施策実施行程



KPI 値

- 保幼小中一貫教育に対する住民意識の醸成(認知度) : 令和6年80% 令和11年90%
- 教職員の小中校種間異動の推進: 令和6年 2人 令和11年 5人
- 校種間をまたぐ交流行事等実施回数: 令和6年 5回 令和11年 10回

戦略プロジェクト



① ひとを育み未来に
つなぐまちをつくる



② 誰もが元気に安心して
暮らせるまちをつくる



③ 住み働き楽しく豊かさを
感じるまちをつくる

④ みんなでまちをつくる

戦略プロジェクト



2 みんなでまちを楽しむ、地域を支えるコミュニティづくり

まちづくりに関わる多くの住民団体において、次世代の担い手の不足から組織の存続が危惧されています。また、総合計画策定アンケートからも地域活動の低下が明らかになっています。

地域におけるコミュニティは、犯罪や災害に強いまちづくりの重要な要素となることはもとより、人びとが健康で充実した生活を送るための基本的な要素でもあり、地域コミュニティの活性化は住民と行政双方の課題です。

このため、住民と行政がともに知恵を出し合い、地域を支える人づくりと持続可能なコミュニティの仕組みづくりを検討し、ともに支え合えるやさしさと活力のあるまちづくりをめざします。

プロジェクト内容

●まちを楽しむひとづくり

新たな地域づくり人材の発掘と育成をめざし、様々な分野における既存の地域活動への参画を促し、活動のすそ野を広げ、活性化を図ります。

また、公共スペースや空家、空き店舗等を活用し、まちに住む人たちが自由に使い気軽に集える場所「たまり場」の提供をおこないます。加えて「きっかけづくり」となる催しを開催するなど小規模多チャンネル型のコミュニティづくりを進め、まちを楽しむひとづくりから地域を支える人材の育成へと発展させ、コミュニティの輪を広げることからまちの活性化へとつなげます。

●地域を支える仕組みづくり

担い手の不足など共通する課題をもつ既存のコミュニティ団体が、ともに現状の課題や将来像を共有し、これからのコミュニティについて考えるための検討会を立ち上げ、コミュニティ再編に向けた議論を活性化させます。

検討会では、他地域の事例研究や先進地の取組み事例等の紹介などを通じ、各団体の現状の再認識を進めます。その上で、活性化に向けた取組みや組織の再編を含めて、今後の組織のあり方について検討を進め、「コミュニティ組織の活性化策」の取りまとめをめざします。また、行政においては、これら活性化策の実現に向けた支援をおこないます。

① ひとを育み未来につなぐまちをつくる

② 誰もが元気に安心して暮らせるまちをつくる

③ 住み働き楽しく豊かさを感ずるまちをつくる

④ みんなでまちをつくる

戦略プロジェクト

プロジェクト推進に係る施策展開

短期的施策

○様々な分野の地域活動への参加促進やコミュニティスペースの設置による地域活動のすそ野拡大(地域人材育成期)

- ・ 緑化活動、防災・防犯、健康づくり、生涯学習・スポーツなど様々な分野における地域活動への参加促進
- ・ 既存の公共施設をはじめ、新たに整備された広場などを活用した、いつでも気軽に立ち寄り、地域やコミュニティに関する情報入手・交換ができるスペース(たまり場)の開設

中期的施策

○地域活動の拡大から波及する住民の意識改革とコミュニティ再生に向けた住民主体の取組み(地域再生期)

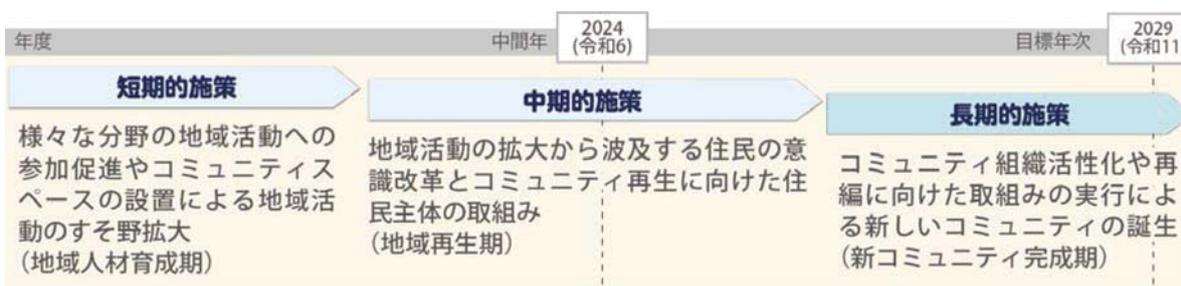
- ・ 住民と行政の協働によるコミュニティ活性化に向けた検討会の設置
- ・ 空家、空き店舗などの活用を含めた身近な場所で選べるたまり場の拡充
- ・ 住民一人ひとりがコミュニティの大切さを自分事として捉えられる意識改革と、地域活動への参画、協働の促進

長期的施策

○コミュニティ組織活性化や再編に向けた取組みの実行による新しいコミュニティの誕生(新コミュニティ完成期)

- ・ 検討会におけるコミュニティ組織活性化・再編策の取りまとめと実行
- ・ 住民主体のたまり場運営への移行と、更なるコミュニティの拡大
- ・ 情報入手や活動の選択ができ、誰もがコミュニティ活動に取り組みやすい環境づくり

施策実施行程



KPI 値

○何らかの地域活動に参加している人の割合: 令和6年 75% 令和11年 80%

① ひとを育み未来につなぐまちをつくる

② 誰もが元気に安心して暮らせるまちをつくる

③ 住み働き楽しく豊かさを感ずるまちをつくる

④ みんなでまちをつくる

戦略プロジェクト

3 にぎわい交流ゾーンを活用したまちの活性化

日曜朝市で活気あふれる田尻漁港を核としたにぎわい交流ゾーン。このゾーンにおいて、地域住民の交流やまちを訪れる人びとの誘致につながる施策の実施により、にぎわいの創出と産業の活性化を図ります。また、歩いて巡ることのできるまちのコンパクトさを活かし、にぎわい交流ゾーンにあるさまざまな地域資源を融合した施策を実施し、まちのにぎわいづくりを推進します。

これら施策の推進により、まちに住む人、まちを訪れる人が楽しく交流し、エリアの活力をまち全体に波及させ、にぎわいと元気にあふれた魅力あるまちづくりへと繋げることをめざします。

プロジェクト内容

●にぎわい交流ゾーンを活用したにぎわいの創生

たじりっち広場や（新）府宮りんくう公園などゾーン内の新施設を活用し、健康づくりや観光事業、その他広範な分野における活動の連携と強化を図ります。また、にぎわいの中心である漁港と他の施設間の連携を深め、住民間や来訪者との交流促進により、常に人が集い、にぎわいのある空間づくりをめざします。

●民間活力を活用したにぎわいの創生

にぎわいの中心的存在である漁業のさらなる観光漁業化を支援するとともに、黄たまねぎなどの作物のブランディングによる農業特産品づくりを進めます。また、日曜朝市などゾーン内での生産物の販売体制を確立し、生産者と消費者の交流の活性化によるにぎわい創出と経済的営農の推進を図るとともに、漁業、農業及び商工業の各事業者間の連携による産業の活性化を図ります。

さらに、田尻歴史館の運営再開における民間事業者との協働や周辺住民が協力したエリアの魅力づくりなどを通じ、歩いて廻れるエリア内周遊ルートの魅力向上とにぎわいの創出につなげます。

●観光振興体制の充実

新たに発足した観光協会と連携したイベント開催などにより、商工事業者の活性化と、誘客によるまちのにぎわい創出をめざします。また、ビジターセンターの整備や魅力ある観光情報を積極的に発信するなど、訪れやすく観光しやすい環境の整備をおこないます。

① つなぐまちをつくる
ひとを育み未来に

② 暮らせるまちをつくる
誰もが元気に安心して

③ 住み働き楽しく豊かさを
感じるまちをつくる

④ みんなでまちをつくる

戦略プロジェクト

プロジェクト推進に係る施策展開

短期的施策

○漁業、農業など各産業分野の横断的活動やたじりっち広場など新規施設の活用と漁港など既存施設との連携によるにぎわいの創出

- ・ たじりっち広場や（新）府営りんくう公園を活用した健康づくりや観光事業など広範な分野における新たなにぎわいの創出
- ・ 漁港とたじりっち広場やふれ愛センターなどエリア内施設の連携によるにぎわいの創出
- ・ 観光漁業を主体としたエリアの活性化に向けた公民連携の推進
- ・ 農業特産品づくりと生産者販売の拡大に向けた新規出店者の育成や効率的な販売体制をめざした分業体制の構築
- ・ 観光協会や漁業、農業、商工業など各事業者と連携したイベントの開催によるにぎわいづくり
- ・ 田尻歴史館の再開に向けた地域住民の意見や民間活力を取り入れた活用方法の検討

中期的施策

○田尻歴史館の運営再開と住民協働によるエリア全体の魅力向上

- ・ 民間活力を活用した田尻歴史館の運営再開によるエリアの活性化
- ・ 住民との協働によるエリア全体の魅力づくりと歩いて廻れるエリア内周遊ルートの魅力向上
- ・ ホームページ、SNS などによる観光情報発信の充実やビジターセンターの整備による観光施策の充実

長期的施策

○にぎわいづくり活動の自立化
○自走可能な仕組みづくり

- ・ コミュニティ組織による主体的で、それぞれの特徴を生かした取組みの展開
- ・ 観光協会や民間事業者が連携したにぎわい創出事業の自立化

施策実施行程



KPI 値

- 10年後の交流人口： 令和6年 16万人 令和11年 19万人
- にぎわいの創出を目的としたイベント開催数： 令和6年 年4回 令和11年 年8回

① ひとを育み未来につなぐまちをつくる

② 誰もが元気に安心して暮らせるまちをつくる

③ 住み働き楽しく豊かさを感ずるまちをつくる

④ みんなでまちをつくる

戦略プロジェクト

